

第25回 ニューメンブレックテクノロジーシンポジウム 2008

会期 2008年12月2日(火)～12月5日(金) 4日間
会場 東京都港区・三田NNホール(三田NNビル 地下1階)
主催 日本膜学会 社団法人 日本能率協会

参加対象
 ■膜の研究・開発・製造に携わるメーカー、ユーザー、エンジニアリング会社の技術者・研究者、および地方自治体・公共機関関係者、学識経験者等
 ■膜利用に関する「水処理(上水・排水)」「環境装置」「エネルギー」「プラントエンジニアリング」分野の技術者等

*プログラム内容(講演テーマ名・スピーカー・講演の順番等)は都合により変更になる場合がありますので予めご了承ください。最新のプログラムはホームページ(<http://school.jma.or.jp/membrane/>)でご確認ください。(敬称略) C:コーディネーター CC:コ-コーディネーター S:スピーカー

12月2日(火) 低炭素社会を実現する膜技術 I

S1 バイオマスエネルギーの最前線 10:00～13:00

C:中尾 真一 東京大学 大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 教授
 CC:大屋 博義 旭化成ケミカルズ(株) 膜・水処理事業部 GSプロジェクト 主幹研究員

1 バイオマスと無機膜技術
 S:草壁 克己 福岡女子大学 人間環境学部 生活環境学科 教授

2 無機膜を用いたバイオエタノール濃縮・脱水技術
 S:相澤 正信 日立造船(株) 事業・製品開発センター 首席技師

3 ブタノール発酵と膜技術
 S:神 啓二 (株)産業技術総合研究所 環境化学技術研究部門 バイオケミカルグループ長

12月2日(火) 低炭素社会を実現する膜技術 II

S2 ガス分離膜の挑戦 14:00～17:00

C:喜多 英敏 山口大学 大学院 理工学研究所 環境共生系専攻 教授
 CC:安藤 泰典 株式会社カネカ 開発・技術本部 研究開発センター 機能膜グループ グループリーダー

1 化学プロセスにおける膜技術導入の可能性
 S:松方 正彦 早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究所 応用化学専攻 教授

2 セラミックス酸素分離膜
 S:高橋 洋祐 株式会社カネカ 開発・技術本部 研究開発センター 機能膜グループ チームリーダー

3 有機ハイドライド脱水素反応用膜反応器の開発
 ～CO₂ゼロエミッションエネルギーシステムの実現を目指して～
 S:中尾 真一 東京大学 大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 教授

12月3日(水) 進化するRO/NF膜技術 I

S3 海水淡水化の最前線 10:00～13:00

C:岩堀 博 日東電工(株) メンブレン事業部 企画グループ シニアコンサルタント
 CC:熊野 淳夫 東洋紡績(株) アクア膜事業部 主幹

1 最近の大型RO海水淡水化プラント
 S:永井 雅彦 三菱重工業(株) 技術本部 長崎研究所 化学研究室 首席研究員

2 海水淡水化の動向
 S:廣瀬 雅彦 日東電工(株) メンブレン事業部 開発部 部長

3 海水淡水化RO膜の最先端技術
 S:辺見 昌弘 東レ(株) 地球環境研究所 所長

12月3日(水) 進化するRO/NF膜技術 II

S4 高機能化への挑戦 14:00～17:00

C:松山 秀人 神戸大学 大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授
 CC:川勝 孝博 栗田工業(株) 開発本部 先進技術第一グループ 第二チーム 主任研究員

1 世界の水処理市場の動向と新技術
 S:栗原 優 東レ(株) 水処理環境本部 顧問

2 世界のRO/NF膜技術 ～ICOM*2008の報告および表面修飾技術～
 S:佐藤 祐也 オルガノ(株) 開発センター 第一開発部 係長 *ICOM=国際膜学会

3 超低圧RO/NF膜および耐塩素性ポリアミド膜の最新動向
 S:新谷 卓司 日東電工(株) 基幹技術センター 第3グループ長

12月4日(木) 加速する膜浄水技術 I

S5 グローバルマーケットの最前線 10:00～13:00

C:田村 真紀夫 有限責任中間法人 膜分離技術振興協会 膜協会ジャーナル 編集長
 CC:和島 秀樹 東レ(株) 水処理・環境事業本部 メンブレン事業第2部 首席部長

1 松山市における膜ろ過施設整備事業
 S:大西 隆 松山市公営企業局 管理部水管理センター 主幹/山本 崇之 松山市公営企業局 管理部 企画総務課 主任

2 海外大型UF膜プラント
 S:糸川 博然 日本ノリット(株) メンブレン地域担当マネージャー

3 PVDF中空糸膜モジュールの諸特性と水処理プロセスへの展開
 S:峯岸 進一 東レ(株) 地球環境研究所 主任研究員/森川 博文 東レ(株) メンブレン事業第2部 営業技術課長代理

12月4日(木) 加速する膜浄水技術 II

S6 ファウリングフリーへの挑戦 14:00～17:00

C:中塚 修志 ダイセン・メンブレン・システムズ(株) R&Dセンター 所長
 CC:貝谷 吉英 (株)在原製作所 環境事業カンパニー 水処理事業本部 環境開発統括部 水環境開発室 第一グループ 副参事

1 浄水膜における不可逆的膜ファウリングの発生・進行機構
 S:山村 寛 北海道大学 環境ナノ・バイオ工学研究センター 博士研究員

2 SNAP-F*シミュレーションによる膜ファウリング機構
 解明へのアプローチ *SNAP-Fは流動過程における液相微粒子の運動を追跡できる、メソスケール固液二相流シミュレータである。
 S:赤松 憲樹 東京大学 大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 助教

3 温度応答性膜の浄水処理への適用
 S:松代 武士 株式会社 電力・社会システム技術開発センター 社会システム開発部 水処理技術担当

12月5日(金) 成長する下排水処理・水回収膜技術 I

S7 世界のMBRの最前線 10:00～13:00

C:大熊 那夫紀 株式会社プラントテクノロジー 環境システム事業本部 海外水処理統括部 海外部 部長
 CC:村上 孝雄 日本下水道事業団 技術開発部 部長

1 中国のMBR事例(仮)
 S:講師選定中 三菱レイオン・エンジニアリング(株)

2 中東におけるMBR-ROシステムの運転事例
 S:北村 光太郎 株式会社プラントテクノロジー 研究開発本部 松戸研究所 水環境・プラント部

3 EUにおけるMBRの開発動向と標準化
 S:村上 孝雄 日本下水道事業団 技術開発部 部長

12月5日(金) 成長する下排水処理・水回収膜技術 II

S8 水循環システムへの挑戦 14:00～17:00

C:川崎 睦男 財造水促進センター 国際協力部 兼 淡水化技術部 首席研究員
 CC:木村 克輝 北海道大学 大学院 工学研究科 環境創生工学専攻 准教授

1 膜分離活性汚泥法を採用した福崎浄化センター
 S:後藤 守芳 兵庫県福崎町 下水道課長/山本 欽也 兵庫県福崎町 下水道課 副課長

2 メンブレンシステムによる水回収事業
 S:育野 望 栗田工業(株) プラント事業本部 技術部 技術一課

3 MBRシステムにおける水循環・排水処理と再利用の動向
 S:長岡 裕 武蔵工業大学 工学部 都市工学科 教授

- 企画委員会委員一覧(順不同・敬称略)**
- 委員長 中尾 真一 東京大学 大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 教授
 - 委員 山本 松山 秀人 東京大学 環境安全研究センター 教授
 - 和夫 神戸大学 大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授
 - 喜多 英敏 山口大学 大学院 理工学研究所 環境共生系専攻 教授
 - 松方 正彦 早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究所 応用化学専攻 教授
 - 都留 稔了 広島大学 大学院 工学研究科 物質化学システム専攻 教授
 - 村田 克輝 北海道大学 大学院 工学研究科 環境創生工学専攻 准教授
 - 風間 伸吾 地球環境産業技術研究機構 化学研究グループ 主任研究員
 - 村上 孝雄 日本下水道事業団 技術開発部 部長
 - 岩堀 博 旭化成ケミカルズ(株) 膜・水処理事業部 企画グループ シニアコンサルタント
 - 和島 秀樹 東レ(株) 水処理・環境事業本部 メンブレン事業第2部 首席部長
 - 中塚 修志 ダイセン・メンブレン・システムズ(株) R&Dセンター 所長
 - 大屋 博義 旭化成ケミカルズ(株) 膜・水処理事業部 GSプロジェクト 主幹研究員
 - 熊野 淳夫 東洋紡績(株) アクア膜事業部 主幹
 - 川勝 孝博 栗田工業(株) 開発本部 先進技術第一グループ 第二チーム 主任研究員
 - 田村 真紀夫 有限責任中間法人 膜分離技術振興協会 膜協会ジャーナル 編集長
 - 佐藤 祐也 オルガノ(株) 開発センター 第一開発部 係長
 - 橋本 暢之 株式会社カネカ 研究開発部 課長
 - 大熊那夫紀 株式会社プラントテクノロジー 環境システム事業本部 海外水処理統括部 海外部 部長
 - 安藤 泰典 株式会社カネカ 開発・技術本部 研究開発センター 機能膜グループ グループリーダー
 - 貝谷 吉英 (株)在原製作所 環境事業カンパニー 水処理事業本部 環境開発統括部 水環境開発室 第一グループ 副参事
 - 顧問 木村 尚史 東京大学 名誉教授
 - オブザーバー 川崎 睦男 財造水促進センター 国際協力部兼淡水化技術部 首席研究員
- 協賛(順不同・申請中含む)**
- 社団法人 日本化学工業会
 - 社団法人 日本生物工学会
 - 社団法人 高分子学会
 - 財団法人 バイオインダストリー協会
 - 社団法人 日本化学工業協会
 - 有限責任中間法人 膜分離技術振興協会
 - 社団法人 日本農芸化学会
 - 日本海水学会
 - 社団法人 日本産業機械工業会
 - 財団法人 エンジニアリング振興協会
 - 社団法人 日本能率協会
 - 財団法人 造水促進センター
 - 日本製薬団体連合会
 - 社団法人 日本水道協会
 - 日本製薬工業協会
 - 社団法人 アルコール協会
 - 燃料電池開発情報センター
 - 社団法人 日本ガス協会
 - 社団法人 日本環境学会
 - 財団法人 水道技術研究センター
 - 日本液体清浄化技術工業会
 - 社団法人 電気化学会
 - 先端膜工学研究推進機構
 - 日本影協協会
 - 社団法人 アルコール協会
 - 社団法人 日本下水道協会
 - 社団法人 日本病院会
 - 社団法人 日本水環境学会

参加申込規定

参加料 (消費税込)

参加者区分	参加区分	セッション別(半日)	日別(1日)	全セッション(4日間)	テキスト合本の申込み(税込)	各セッションのテキスト
日本能率協会法人会員・日本膜学会会員		19,000円	36,000円	120,000円	シンポジウム参加者 27,000円	を一冊にまとめたテキスト合本を特別価格で販売いたします。
協賛団体会員		20,000円	38,000円	126,000円		
国・地方自治体機関・大学		5,000円	9,000円	35,000円		
上記外		21,000円	40,000円	135,000円		

①上記参加料には各セッションのテキスト代が含まれております。②複数セッションにお申し込みの場合は、交換してご参加いただけます。

参加申込方法

①申込書に必要事項をご記入のうえホームページ、FAX又は郵送でお送りください。派遣責任者へ参加届と請求書をお送りいたします。(なおそれ以外へ送付を希望される場合は、その旨参加申込書の「連絡・希望事項欄」にご記入ください。)

②電話でのご予約も承ります。その場合は、正式の申し込みとして、必ず申込書をお送りください。**【明日が切迫してから申し込まれる場合】**

- あらかじめ電話にてご確認ください(参加定員等の関係で参加できない場合があります)。
- なお、参加証をお送りできないことがありますので、その場合は別途ご連絡いたします。

参加料支払い方法

請求書が届いた次第、指定銀行の口座にお振込みください。お支払いは、原則として開催前日までにお支払いをお願いします。開催後になる場合は、お支払い予定日を申込書に明記してください。(振込手数料は貴社でご負担ください。)

*日本能率協会の法人会員は、事業所単位となっております。貴社の会員窓口をご確認ください。

キャンセル規定

参加予定の方のご都合が悪い場合は、代理の方がご出席ください。代理出席も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。

(注)キャンセルの場合は、必ずファックスでご連絡ください。

開催7日前～前々日(開催初日を含まず計算).....参加料の30%
 開催前日および当日.....参加料の全額
 ※当日、無断で欠席された方も参加料全額をお支払いいただきます。

ご注意

- テキストは会場でお渡しいたします。(参加者以外のテキスト合本は会期終了後にお返しいたします。)
- 講演の録音・撮影はご遠慮ください。
- 飲食はついておりません。
- お申し込みいただいた方にはセミナーインフォメーションをお送りする場合があります。

会員制度のご案内

社団法人日本能率協会は法人を対象とした法人会員制度(事業所単位)を設け、セミナー参加料割引をはじめ各種サービスを提供しております。会員外の方はこの機会に是非入会をご検討ください。

資料請求先: (社)日本能率協会 開発・技術振興本部 TEL:03(3434)1410(直通)

参加申込書

JMAマネジメントスクール (FAX:03-3434-5505) <http://school.jma.or.jp/membrane/> (HPからもお申し込みできます)

ニューメンブレックテクノロジーシンポジウム 2008 開催期日 2008年12月2日(火)～5日(金)

参加者区分	該当欄に「 <input type="checkbox"/> 」印をご記入ください
フリガナ	(社)日本能率協会法人会員(事業所単位)
会社名(正式名称)	協賛団体会員(団体名)
	国・地方自治体機関・大学
	上記外
所在地	電話番号(市外番号からご記入ください)
	FAX番号(市外番号からご記入ください)
フリガナ	参加されるセッションに「 <input type="checkbox"/> 」印をおつけください
派遣責任者名	12/2(火) 12/3(水) 12/4(木) 12/5(金) 受付No.
フリガナ	1 2 3 4 5 6 7 8
氏名	1 2 3 4 5 6 7 8
フリガナ	1 2 3 4 5 6 7 8
氏名	1 2 3 4 5 6 7 8

●セッション別(半日)参加料(※) (P) (A) センサー

●日別(1日)参加料(※) (P) (A) センサー

●全セッション(4日間)参加料(※) (P) (A) センサー

●テキスト合本申込(※) (P) (A) センサー

合計金額(消費税込) ¥

参加申込先 GCB723

〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22 社団法人 日本能率協会 JMAマネジメントスクール

FAX: 03-3434-5505

TEL: 03-3434-6271

【受付時間】 月～金曜日 9:00～17:00(ただし祝日を除く)

<http://school.jma.or.jp/membrane/>

